

1. 保育目標及び教育方針と理念

<保育目標>

学校法人めぐみ学園が設置する幼保連携型認定こども園めぐみ幼稚園は、キリスト教精神に基づき教育並びに保育を一体的に行う。同時にまた、子どもの健やかな成長が図られるよう適切な環境を整えて、その心身の発達を促し、保護者に対する子育ての支援を行なう事をその目的とする。

<教育方針と理念>

めぐみ幼稚園は、子どもがイエス・キリストを通して示される「神の愛と恵」のもとで育てられることを願って、日本基督教団盛岡松園教会（大沢川原教会）を母体として設立された。この願いを受け止め、保育者は、聖書の言葉に学びつつ、イエス・キリストとの交わりを通して与えられる導きに従い、子どもを愛し育てられる神の業と恵みとに共に与えることを祈り求めていく。

その保育の中心は遊びであり、遊びには幼児の成長や発達にとって重要な要素が含まれている。園生活を楽しく豊かなものとするを求め、幼稚園は楽しく自由にのびのびと遊べる環境と機会を作り出すことに努める。遊びを自発的な活動とすることは、子どもが心身全体を働かせ、様々な体験を通して、達成感、充足感、満足感、挫折感、葛藤などを味わうことにつながる。それによって、精神的な成長を遂げ、心身共に調和のとれた人格を形成するように子どもたちを導く。

めぐみ幼稚園ではまた、通常保育を充実させることと並んで、行事を通して子どもが成長していくことができるように努める。行事の計画を立てるに際しては、日常の保育の流れの中にどのように組み込んでいくか、子どもの様子を見て無理なく準備を心がける。

キリスト教保育を志すめぐみ幼稚園では、礼拝を大切にし、各クラスの毎日の礼拝、学年ごとの合同礼拝、全園児合同礼拝をおこなう。礼拝を通して、子どもが神の存在を確信し、自分が愛されていることを知り、心の平安を得て、交わりを深めていくことができるように導く。

2. 2025 年度の自己評価の結果から

教育・保育方針と計画

- * 個々の月齢に合わせた保育、成長を見守りながらの援助していくことの大切さを日々感じながら保育に携わっている。めぐみ幼稚園の創立の柱である、神様への感謝の心を子どもたちと共に手を合わせ、祈ることに幸せを感じている。
- * 個々の発達の違いを受け入れ、目標にあわせるのではなく、できていること、園児の好きなことや得意なことを見逃さないようにする。
- * 発達過程の理解や人格の基礎を培う時期に、どのような関わり方が必要なのか、日々、共通理解をする機会を設けていく。

子どもとのかかわり

- * 声をかけてくる子どもだけでなく、静かに様子を見ている子どもにも気をかけるよう心掛ける。
- * 「子どもの人権に配慮した対応」を考えた時、一人ひとりが“幸せ”で“自分らしく自由に生きられているか”を追求する必要性があり、子どもの人権についてさらに学ぶ必要を感じる学びを深めていくことが課題となっている。
- * 集団生活になじめない園児の場合、その子の家庭の状況などを踏まえて、丁寧な受け止めが必要と感じた

保護者との関わり

- * 以上児は、保護者と接する機会が少なくなりがち。体調や怪我等の連絡だけでなく、細かいエピソード等も伝えるようにういていきたい。
- * 保護者と話す時間がなかなか取れず、個人的には十分でないと思えることがある
- * 園外での個人情報保護には気を付けているが、園内でも、気を付ける必要がある。また、園外での個人情報に関わる話をしないようにしているが、園内では、保育者間での共有したいこともあり、難しいと感じた。月齢や発達の状況ならではの相談に対して、保護者との関わりを大切にしたい。
- * 苦情や要望、相談等があった場合、担任一人で抱え込まず、教職員で共有し、様々な観点から検討し、対応を考える。
- * 登降園の時などに対話を通して情報共有に努めたが、積極的に発信する保護者についてはスムーズに共有してしまいがち。保護者との連携は大事であり、意思疎通に必要な雰囲気作りや日頃からコミュニケーションを大事にしていきたい。を心がけたい。

保育室の環境、働き環境

- * アレルギーに関して、個々の違いを念頭に、症状がでた場合の対応を、保育者及び保護者と連携を大切。アレルギーは命にかかわることだという認識のもと、学びを深める必要がある。
- * 「苦手なものは食べさせないでほしい」という家庭が多く、給食の際にどう声がけするかが、課題。
- * “環境を通した学び”のために、どういう構成や準備があれば良いのか、現状把握と共に長期的視野で教職員みんなで常に考えていけたらと思う(研究会含め)。
- * 安全に留意しながら、子ども達が興味のある遊びを優先しながら、楽しく過ごせるように心がけている。

特別支援教育

- * 園全体で園児を見るという姿勢はあるが、具体的方法については理解が不足している。特に支援を必要とする園児にとって、何が必要で、適切な保育には何が必要か、長期的視点で考える必要がある。支援の必要な子を受け入れる場合、支援体制を園全体で確認し、園として支えあうことを第一にする。会議録等での共有にとどまり、十分に理解できていないところがある（複数）
- * 適切な支援ができるよう、研修などに参加し、能力の向上を図りたい
- * 特別支援に関する知識や経験を持つ職員を置くことを考える

子育て支援

- * 登降園の時間が守られていないので、改善が必要
- * 発熱等の園児がいた場合、「すぐ連絡」する前に、その園児の機嫌や食欲、体調などを見て判断していく必要があると感じる。
- * インスタグラム等を活用すればひつじ組を利用する子どもが増えるのではないかと。

3. 職員会で自己評価について教職員で共有したこと

- ・ 園の教育目標及び教育方針を理解し、全職員が心を合わせて保育に取り組み、園児の最善の利益を最善に考えて丁寧に保育に取り組んでいく。
- ・ 教職員がキリスト教保育の土台に立って保育を行い、隣人を愛し、「毎月の聖句」を教職員で学び、キリスト教保育を子どもたちに伝えていく。
- ・ 安全面に十分留意し、実践的な嘔吐処理やアレルギー対応等、応急手当の研修等、緊急事態にも対応できる体制作りをしていく。
- ・ 園の様子を家庭に伝えたり、普段の保育の様子を写真等で伝えたり、保護者との連携をはかっていきたい。
- ・ 支援を必要としている子に対して、適切なサポートができていたのか、研修が必要と感じる。特別支援等について、園全体で研修し、情報を共有し、受け止めていく体制づくりが必要。また、保護者、関係諸機関等、情報を共有し、その子の発達を支援していく体制づくりが大切。
- ・ 就学に向けて職員で取り組んでいくが大切。小学校へスムーズに橋渡しができるように連携を大切にする。
- ・ 食物アレルギー児が増加、クラス担当と連携し、給食室で声も掛けて、間違いがないように必ず、確認しあう。また、ステイの時間や土曜保育の時も間違いがないよう確認しあう。また、週 1 回ワンテーパー給食デー(全部のアレルギーを除去した給食)の日を設け、園児も教職員も一緒に安心して楽しく食事できる場を作りたい。
- ・ 保護者の方をはじめ、地域の方等、多くの方に園の様子等を知っていただくためにおがスマや SNS 等、情報発信の仕方を工夫していく。

4. 財務状況

県や市の指導に基づき会計処理し、監査を経て公認会計士により適正であると認められている。